

報道機関各位

熊本大学

アオコ処理装置（MIZUMORI）のダムでの現地実験公開

微細藻類（ミクロキスティス）がダムや池、湖を覆い尽くした状態をアオコと言い、水面にペンキを塗ったように景観を悪化すると共に、太陽光を遮ることにより生態系に影響を与え、自然環境を損ないます。さらには、水道水の異臭・異味の原因や、淡水漁業、観光産業等に打撃を与えます。毒素（ミクロシスチン）による家畜の被害も海外では問題となっています。このアオコ処理技術の開発は世界中で期待されています。

熊本大学パルスパワー科学研究所での国際的に注目されている研究成果を基に、熊本大学発ベンチャー企業である株式会社融合技術開発センターと株式会社末松電子製作所（八代市にある企業）の連携により、アオコ処理装置（MIZUMORI）を開発しました。今回、熊本県内の氷川ダムにおいて、下記のように、現地実験の公開をする運びとなりました。

熊本大学で開発されたアオコ処理の方法は、微細藻類の細胞内にあるガス胞（魚の浮き袋のようなもの）をパルスパワーで生成した水中フラッシュプラズマ（または水中ストリーマプラズマ）でたたき、沈めます。沈んだ微細藻類には太陽が当たらないので、光合成が起こらず、増殖が抑制されます。従って、開発した MIZUMORI は、微細藻類の増殖を抑え、ダムや湖の水環境を守る装置ということが出来ます。

日時：平成 25 年 8 月 21 日（水曜日）13 時から 14 時まで

場所：氷川ダム（熊本県八代市泉町下岳）

注意：天気予報やアオコの発生状況により、もし中止の場合は、8 月 19 日（月）に御連絡いたします。



写真 1. 一面アオコの中で処理中の MIZUMORI の写真



写真 2. 数十分で 6mx6m の仕切り内の水がきれいになった様子。

【お問い合わせ先】

熊本大学パルスパワー科学研究所 所長
秋山秀典 096-342-3618